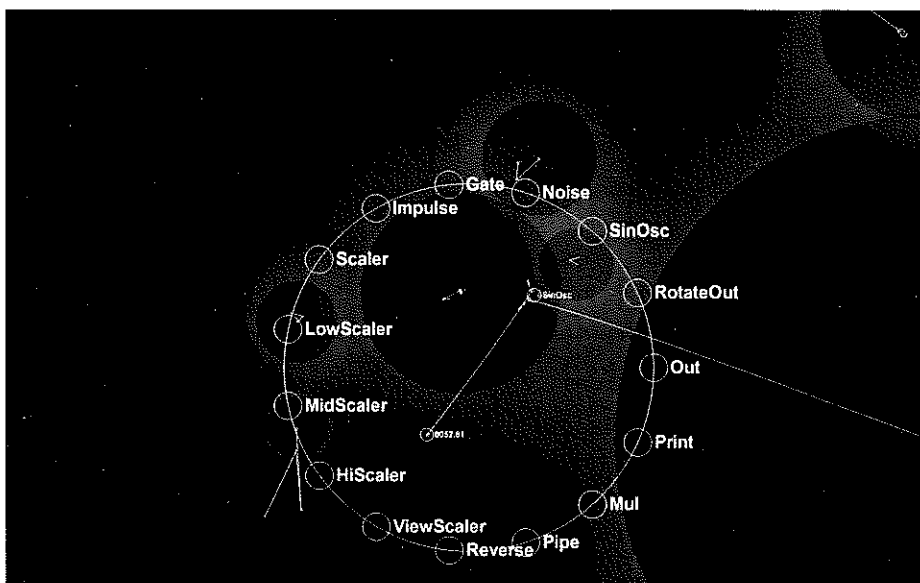


YCAM長期展示作品シリーズ scopic measure #05

比嘉了「VP3L」



この度山口情報芸術センターでは、長期展示作品シリーズ「scopic measure(スコピック・メジャー)」*の第5弾として、比嘉了(ひがさとる)氏の「VP3L」(*)を展示いたします。

「VP3L」は、3次元知覚空間をベースにした、リアルタイム音響プログラミング言語です。コンピュータでシミュレートした3次元空間内に配置されたオブジェクトをワイヤで繋いでいく直感的な操作によって、誰でも簡単に音響プログラムを記述することができます。また、オブジェクトの位置や組み合わせ方を変えることによって、体験者が、自由に音響空間を構築しながら操作することができます。

(*)作品タイトル「VP3L」は、「Visual Programming in 3D Landscape」を意味しています。

scopic measure #05

比嘉了「VP3L」(ヴイ・ピー・スリー・エル)

会期：2007年7月14日(土)～11月26日(月) 10:00～20:00 *火曜休館

会場：山口情報芸術センター 2Fギャラリー 入場無料

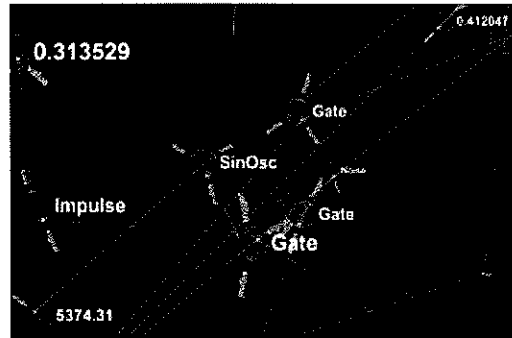
主催：財団法人山口市文化振興財団

企画：山口情報芸術センター

制作協力：YCAM InterLab

□作品概要

「VP3L」は、比嘉了によって独自に開発された音響合成ソフトウェアです。現実とプログラムの空間を、音響空間を作り出す操作を通して連動させ、包括的に扱うことを目的としています。参加者は、コンピュータでシミュレートした3次元空間内に配置されたオブジェクトをワイアで繋いでいくという直感的な操作によって、空間的にプログラムを記述し



ていくことができます。それによって、プログラミングの専門的な知識がなくても、オブジェクトの位置や組み合わせ方を変えることで自由に音響空間をコントロールすることができます。

[今回の展示は、アーティストが1週間ほどYCAMに滞在/研究し、バージョンアップを行った最新版です。]

* 「VP3L」はMAX/MSPのようなパッチをベースとした、GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）を用いたオブジェクト指向の言語です。

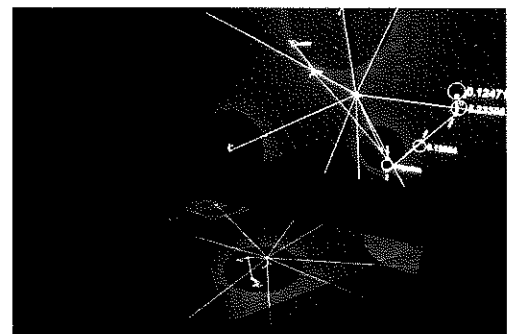
作品は、以下の2つのエリアで構成されています。

- 1) インスタレーション版「VP3L」
- 2) 「VP3L」を使った音響作品制作ブース

1) インスタレーション版「VP3L」

インスタレーション版「VP3L」では、プロジェクションされたプログラミング空間と、音響としての現実空間が、作品を操作することで密接に結びつけられ、それらの空間を同時に並列的に体感されることを目的としています。

インスタレーションでは、体験者の正面と床面に2面のスクリーンが設置されています。両スクリーンにプロジェクションされているのは、音響が生成されるオブジェクトを配した3次元の仮想空間で、正面のスクリーンには体験者の視点に近い映像、床面には空間を俯瞰した映像が映し出されています。



体験者は、空間の中央に設置されたコントローラを

操作することで、プログラミング空間内を自由に移動することができ、映像の動きとリアルタイムに同期した音風景を体感することができます。体験のための音響空間のプログラムは、随時追加されていくため、様々な音響構成が楽しめます。

(今回、YCAMバージョンとして、4.1chサラウンド設定にバージョンアップを行っています。)

2) 「VP3L」を使った音響作品制作ブース

ソフトウェア「VP3L」による音響作品制作用のパソコン端末が設置されています。参加者は、事前に用意された様々な音のプログラム要素を組み合わせることによって、オリジナルの音響作品を制作することができます。また、音響作品制作ブースで制作した音響作品は、隣接したインストール版「VP3L」のプログラムと連動しており、自分が制作した作品を実際に立体的な音響空間として体験することができます。

□ARTIST PROFILE

比嘉 了 / Satoru Higa

1983年、沖縄県生まれ。プログラマー。

オリジナルなプログラムやデバイスを用いたサウンド・パフォーマンスや、ソフトウェア・アートの制作研究を行う。近年は、3次元空間における独自のユーザー・インタフェースを設計し、それを用いたリアルタイム音響合成ソフトウェア「VP3L」を開発している。多摩美術大学大学院デザイン専攻大学院2年、サウンド&メディア・アート研究室所属。



<http://www.lalalila.org/>

□作品活動歴

- 2006 NIME [New Interfaces for Musical Expression] (パリ/フランス)
- 2006 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (初台/東京)
- 2007 IPA 2007年度第1期 未踏ソフトウェア創造事業に採択

夏休み期間中、「VP3L」以外にも、下記の2作品を体験することができます。

■ #03 江渡浩一郎(独立行政法人 産業技術総合研究所) 「Modulobe」

□会期 2007年4月20日(金)-12月27日(木) 10:00-20:00

□会場 山口情報芸術センター スタジオC前

コンピュータ上で動く仮想のオブジェを、レゴブロックのように簡単に作れるソフト「モジュロブ(Modulobe)」。ブロックのように小さなパーツを、さまざまな形をつないでいくことで、いろいろな動きを持つモデルを作り出すことができます。モデルは自分のパソコンに保存できるほか、専用ウェブサイトに掲載できます。本展示では、投稿されたユーザー作品の中から、いくつかを紹介します。【協力：独立行政法人 産業技術総合研究所】



□ARTIST PROFILE

江渡浩一郎 Kouichirou Eto

1971年生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科卒業。ネットワーク上のコミュニケーションをテーマとした研究・作品制作活動を行う。1996年、sensoriumプロジェクトにて「WebHopper」を制作。sensoriumは、1997年アルス・エレクトロニカ賞グランプリを受賞。2001年、日本科学未来館「インターネット物理モデル」の制作に参加。2005年、仮想生物構築環境「Modulobe」を発表。2003年より、メーリングリストとWikiを統合したコミュニ

ケーション環境「qwikWeb」の開発・運用を行っている。

■ #02 MaSS dev. 「MaSS 2007 ver.」 (マス・2007・バージョン)

□会期：2007年4月4日(水)-11月5日(月) 10:00-18:00

□会場：山口情報芸術センター 2Fギャラリー(スタジオA側)

「MaSS [Market as Speed Spectra]」は、地球上のあらゆる国からのアクセスが行われていて、世界で最も取引量の多いといわれる市場の一つ、米NASDAQという電子株取引市場でやりとりされている株取引の「速度」に注目した作品です。

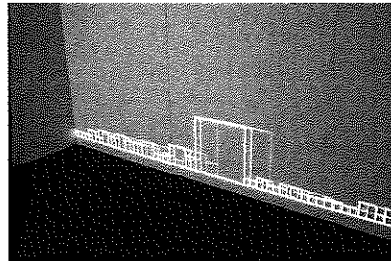
一回の取引が成り立つ(これを「1 tick: ティック」と呼びます)と、パルス音とともに部屋のフラッシュライトが一回光り、画面上の正方形が一つ送られます。

ティックの時間的な間隔に注目してみると、少ないときには、数

秒に一回、多いときには500回/秒という取引データが記録されています。株の取引というのは一定の速度で行われている訳ではなく、揺らぎやリズムを持って粗密が繰り返されていることがわかります。

MaSS dev.は、取引記録のデータをメディア変換し、この取引記録を1倍速(つまり、実際の取引とおなじ速度)で再生することによって、電子ネットワークの中にかすかに息づく野生性を見い出そうとしています。(本作は、2004年「時間旅行」展のバージョンアップ版です。)

◎8月1日(水)より、最新の改訂版をご覧ください。



□ARTIST PROFILE

MaSS dev. (マス・デヴ)

金融データを用いた速度の表現というテーマを中心にシステムをデザインする作品「MaSS」を制作するために設立したプロジェクトグループ。プロジェクトに応じてメンバーが入れ替わる。YCAMでは、「時間旅行」展(2005年3月-6月に開催)にて「MaSS」の展示を行った。2006年「コネクティングワールド」(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] /東京)に参加。

* 「scopic measure (スコピックメジャー)」: コンピュータメディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、先端情報技術を柔軟に使いこなす、今後期待される若手アーティストの作品やプロジェクトを紹介していくシリーズ。YCAM 館内の展示空間/公共空間において、年間を通じて順次展示を入れ替えながら、継続的に紹介します。

scopic measure 出展作品

#01 「KODAMA」 山川 K. 尚子 (会期:2/1~7/2) *現在終了

#02 「MaSS 2007 ver.」 MaSS dev. +YCAM InterLab (会期:4/4~11/5)

#03 「Modulobe」 江渡浩一郎(独立行政法人 産業技術総合研究所) (会期:4/28~12/27)

#04 「DriftNet」 「a plaything for the great observers at rest」 平川紀道 (会期:5/9~7/12) *現在終了

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター(広報：小滝)

〒753-0075 山口県山口市巾着町 7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>